

かわら版

社団法人版第3号

発行責任者 社団法人北海道社会福祉士会会長
奥田龍人

報 告

▼ 5月12日 社団法人北海道社会福祉士会 2007年度総会を開催しました

2007年度第1回総会を5月12日に全日空ホテルにて開催いたしました。

出席者は64名、委任状・書面表決の提出は640名、定足数の524名を満了し、総会は成立した。木村明人会員（苫小牧市）に議長を務めていただき、総会の開会を宣言しました。

2006年度事業報告を会長及び各担当理事より、2006年度の決算報告を会長より説明があり、質問・意見もなく、無事に総会を終えることができました。



総会議事録はホームページの会員専用のページに掲載してあります。今すぐアクセス！

▼ 総会後はセミナーを開催 なんと出席者は250名！！

日本社会福祉士会 村尾俊明会長から「福祉課題と社会福祉士の役割」ということで、今後の社会福祉士はどうあるべきか、また、課題とどう向き合うべきかをご講演いただき、今後のました。

社会福祉士にとって、自分がどのような姿勢であるべきかを考えるきっかけとなるご講演でした。



↑ 村尾会長に熱くご講演いただきました



村尾会長の示唆あふれる記念講演の後、東京を中心に活躍中の若手講談師・神田織音さんをお招きして、成年後見制度をテーマとした創作講談の口演会を行いました。

会場は予想を上回る250名を超える参加者で埋まり、半数近くは市民の方と見受けられました。市民的な関心の高さに驚きつつ、当会の法人化を文字通り“市民セミナー”として迎えることが出来たことに感慨を覚えました。

創作講談は、昨年、横浜社会福祉士会と神田さんが共同で創作したもので、各地の口演が好評で話題となっているものです。須田幸隆会長はじめ横浜市社会福祉士会のメンバーが普段の後見活動の経験を元にシナリオを書き、講談は全三話。認知症の老姉妹が被害にあった住宅リフォーム詐欺事例や、親族による預貯金使い込みへの介入、「親亡き後」の障がい者の生活支援などをテーマに構成。成年後見制度の利用で状況が改善した場面まで盛り込んでいます。特に、最後の「親亡き後」の講談は、さすが講談師！というほど、障害児とその親の社会生活の軋轢や不安、苦労などを見事に演じていただいて、その世界に引き込まれ、思わず目頭を押さえる方も。伝える力、感動させる力の素晴らしさに感動しました

白戸は夫々の講談にコメントをする役割で、事前の原稿打ち合わせの中で、「制度の解説に終わらないで、どこに相談したらいいか、制度を利用する費用のこととか、関心を持った市民がどうしたらいいかを具体的にお知らせできるようにしてください」とピシッと神田さんに釘をさされました。ただの講談師ではないな！横浜のメンバーと神田さんとの密度の濃いやり取りを垣間見た感じがしましたし、社会福祉士として社会を変えよう、「市民と地域社会に働きかけ、地域を変えていく」という気概に触れ、大いに学ばせていただいた講談でした。

社会福祉士のアイデンティティは人権と権利擁

護にあります。社団法人化を契機に、北海道社会福祉士会は、権利擁護センター「ばあとなあ北海道」の機能強化のみならず、各分野の実践を通して地域の権利擁護体制の構築のために一層、積極的に活動していきたいと思ひます。

(白戸一秀 氏：北海道ばあとなあ運営委員)



↑ 神田織音さんの「聞いて納得 成年後見制度」の講談では目頭が熱くなる場面もありました。



- Voice -

▼ 調査研究された会員からのメッセージ紹介です

北海道社会福祉士会では社会福祉士の資質向上、専門的知識及び技術等の向上を図るなどのために調査研究をする個人、グループに助成金を交付しています。今回は、平成18年度に調査研究された会員の方から頂いたメッセージを紹介しします。

○ 帯広協会病院

ソーシャルワーカー 田巻憲史 氏

ソーシャルワーカーとして業務を行っていますが、どうしてもルーチンワークに追われてしまっています。しかし、社会調査やソーシャルアクションをしなければソーシャルワーカーとしては半人前であると思ひ、本制度ができたので、早速応募しました。

本格的な調査はこれまで行ったことがなく、先行調査を調べたり、調査項目を考えることから手間取りました。結果としては、十分な助成金を頂いたので、道内の全市町村へのアンケート調査を行うことができました。

郵送代などが高額になるため、この制度がなければ困難であったと感じています。調査項目の文言など、振り返ると反省する点が多いのも事実ですが、これも行って見たことで分かったことなので、自分自身のスキルアップ

のためにも有意義でした。しかし、今更ですが、調査を行うにあたり、指導・助言をしてもらえる学識者が近くにいると良かったのかなと思ひています。

テーマは、「医療的ケアを必要とする子どもの就学についての実態調査」としました。これまで6年間、支援活動が続ける中で、他地域の情報が全くなく、就学に限らず、制度の狭間にある医療的ケアを必要とする子どもの支援に取り組んでいる社会福祉士やソーシャルワーカーにほとんど出会うことができずにきました。こういった問題に社会福祉士として積極的に取り組んでいかなければならないと思ひ、実態を知ってもらうためにも、本調査を進めました。

事業としては終了ですが、子どもやその家族の生活はこの先もずっと続いていくことですので、本調査を今後の活動に生かしていかなければならないと思ひています。

少し大変でも得るものも多いので、他の多くの会員にもぜひ本制度を利用して欲しいと思ひます。

○NPO法人地域福祉支援センターちいさな手
清野光彦 氏

今回、研究助成金を頂き「中山間地域における独立型社会福祉士への期待」というテーマで研究調査させていただきました。

私は、かねてより既存の組織から離れNPO法人を設立するなど、社会福祉士の新たな社会資源としての可能性を探っておりましたが、この度の助成のおかげをもちまして非常に限られた範囲ではございましたが、活動の類似性を比較検討する機会を得るとともにその効果を自分の目で確認し肌で実感させていただくことができました。

心より感謝申し上げます。

独立型社会福祉士は、2001年前後より主に関東圏より西の地方で活発な活動を展開しております。

日本社会福祉士会でも委員会を立ち上げて独立型社会福祉士の社会的認知を得るべく様々な取り組みをしているところではありますが、その形態は実に多様であり「独立型に何が出来るのか」については、まだまだ未知な部分がたくさんあります。それは、人間が「生き」「活動する」いわゆる生活という様々な局面において、実に多様なニーズが発生している事を裏付けているともいえるでしょう。

制度の隙間に落ちている、制度そのものが存在しない、制度は存在するが事業として成り立たないなど、全国には独立型が独自の裁量で頑

張り、解決している例は山ほどあり、独立型の数だけ個性的な独自の実践が存在するといっても過言ではないでしょう。

私は、人の生活には「文化」が関係すると思っています。「文化」は、その土地や地域に根ざしたものとして守られたり発展したりしてきました。つまり、地域における生活ニーズを理解するためには、その土地の空気や匂い、習慣や人情といった生活を構成する様々な事柄に触れ体感しなければ理解し得ない部分があると考えています。

今回の調査では、文献を整理する以外は、北海道とは位置的にも歴史的にも対極にある、九州の実践者を訪問し、インタビューを通して私の実践と比較するという内容にしました。それは、こういう地域特性を持った生活ニーズにこのような実践が存在しているという事実をまず確認することから始めたいと思ったからです。

結果的に、この調査のテーマである「中山間」地域における社会資源として「独立型社会福祉士」が機能的に有益かもしれないという感触を得ることができたことは良かったと感じています。

今後も細く長くこのテーマについて取り組んでゆきたいと考えておりますが、そのきっかけを与えて下さったこの助成に感謝したいと思います。

本当にありがとうございました。

- (現) 弘前学院大学社会福祉学部
(旧) 帯広大谷短期大学

小川 幸裕 氏

このたび、研究助成金を頂き「中山間における独立型社会福祉士の活動への期待」をテーマに調査研究を行いました。今回の調査では、近年注目されつつある「独立型社会福祉士」のこれまでのあゆみを整理するとともに、北海道と大分県における活動の比較を行い「独立型社会福祉士」の可能性を探ることを目的としました。

今回の調査で感じたことは、“その土地に入ってみないと分からない”ということです。調査で訪れた大分県は、山々に囲まれ、その山にへばりつくように家が建ち、山の斜面には棚田が広がり、移動もまさに山から山へといった感じで十勝にはない風景を目にできました。加えて、脈々と受け継がれていく風習や文化が、その土地の住民の方の生活に深く根付いており、その“土地”に配慮した支援の必要性も強く感じることができました。同じ中山間地域とはいえ大きく異なる地域性に触れ、地域に根を下ろし地域特性に柔軟に応じた創造的な支援ができる「独立型社会福祉士」は、今後の中山間地域

の福祉を担う専門職であると考えています。

社会福祉士の資格誕生から約 20 年がたちますが、いまだに「顔が見えない」専門職と揶揄されることもあるなかで、「独立型社会福祉士」の活動は地域の特性や利用者の生活に応じた柔軟かつ創造的な支援を展開できるという点で、今後の社会福祉士の新たな可能性を感じています。

今回の調査を通して、「独立型社会福祉士」は多くの課題を抱えながらの活動ではあるものの活動を展開する“ひと”にそれを補って余りあるほどの情熱と使命感といったエネルギーを感じることができました。そして、福祉に携わる“ひと”の魅力を再確認させていただいた調査でもありました。

- 名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科
准教授 松岡 是伸 氏

現在、「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正や福祉人材確保の方針等、福祉マンパワーの量的確保と質的な向上は大きな課題となっています。このような潮流の中、道北圏での社会福祉士の現状や実態を明確にし、今後の援助実践や社会福祉士のあり方の検討の一助になることを願いアンケート調査を実施させていただきました。

アンケート調査からは、社会福祉士の皆様が専門職者としての資質や力量、価値等を高めるために日々自己研鑽や努力をなさっている点が強く感じられました。そして本調査回収率の高さ(78.99%うち有効回答率 77.31%)は、社会福祉士によせられる専門性の明確化や社会的地位の向上、待遇条件の改善等への関心の高さからであると思います。道北圏の社会福祉士の皆様の高い関心と自己研鑽に励む姿は、将来、専門職者としての期待を地域から集めるとともに福祉専門職者を目指す者にとって大きな理想となることを確信しております。

また、アンケート集計作業を終了させていただき、今後、社会福祉士の皆様の援助実践や自己研鑽の場の設定等を、地域特性や事情にあわせ支えていく体制の一層の推進が必要であることを実感しました。ところで、道北圏(北海道全般に言えますが)は、広大な面積をもちながらも交通網が制約され移動には長時間を要することが多々あります。この現実を考えたとき社会福祉士同士の情報交換や交流等により、より専門性と資質を高めるネットワークの形成が重要になってくると思います。今後、道北圏の社会福祉士の皆様一人ひとりが、より専門的なソーシャルワークを展開できる地域システム等の形成があることを期待しております。私も微力

ながらその一員となることができればと思っております。

最後になりましたが、本調査研究へご協力とご支援をいただいた道北圏社会福祉士会会員様及び入会予定者様、並びに北海道社会福祉士会様をはじめとした多くの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

求 人

社会福祉法人愛善会 特別養護老人ホーム愛善園

募集 社会福祉士 1名
職務内容 地域包括支援センターの業務
資格 社会福祉士
年齢 不問
給与 当法人給与規程により支給
(基本給 150,500~198,800)
待遇 社会保険、雇用保険、各種手当、賞与(年3回)
委細面談
勤務場所 旭川市
(末広・東鷹栖地域包括支援センター)
応募方法 電話連絡の上、履歴書を持参
面接日時 後日連絡
連絡先 社会福祉法人 愛善会
旭川市春光台4条1丁目
Tel 0166-52-8118
Fax 0166-52-8102
Email aizenen@aizenkai-swc.jp
(担当 加藤)

研修会のご案内

1. 介護支援専門員受験対策講座 9月15日開催
模擬試験 10月8日開催
※同封の案内をご覧ください。
 2. 社会福祉士受験対策講座
9月16日・17日開催、10月20日開催
 3. 社会福祉士全国統一模擬試験 10月28日開催
※同封の案内をご覧ください。
- 以上ご周知のほどよろしくお願いいたします。

予告!

社会福祉士全国統一研修について
9月1及び2日に開催される全国統一研修に付きまして、来月ご案内いたします。よろしくお願いいたします。

事務局より

- 5月22日より新しい事務局員・芦田綾子(あしだりょうこ)さんをお迎えしております。
また、山本千絵事務局員が8月上旬の出産のため、6月25日より出産休暇・育児休暇をいただくこととなりました。
会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、これからもよろしく願いいたします。
- 研究助成事業について、15万円×4個人・団体で公募したところですが、締切の5月末現在1名の応募しかありませんので、締切を7月14日に延長することとしたのでお知らせいたします。応募の詳細についてはHPを参照してください。
- 会員名簿について、先日皆様に情報公開のアンケートの依頼をしたところですが、返ってきたのは200名弱でした。アンケートへの返送がないと名前だけの公表としたため、「社団法人の会員名簿として有効性があるのか」と理事からも指摘されており、会員名簿の取り扱いについてはもう一度検討することとしましたのでご了承ください。
- 社団法人となってからの「規程集」について、会員向けHPに随時掲載することとしましたので、ご参照ください。
- 2005年度から徴収している北海道社会福祉士会の会費について、初年度(05年度)は郵便振込みでの対応しかできなかったため、未納状態の会員が120名程います。この会費を納入しないと会員の様々な権利(例えば研修受講の可否)に影響しますので、これからまた郵便や電話で督促することとしましたので、その際は速やかに納入されるようお願いいたします。

Welcome!



現在の北海道社会福祉士会 会員数
1,098名です(5月31日現在)
(5月の新会員は21名)

社団法人 北海道社会福祉士会

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地SCビル2階

TEL 011-717-6886(月~金)

FAX 011-717-6887

9:30~12:00/13:00~16:30

E mail info@hokkaido-csw.org

URL http://www.hokkaido-csw.org/